

文章題のめあてとまとめ 解決の道筋

—— 5年「同じものに 目をつけて」(啓林館) について ——

(注：ページ番号は，平成 27 年啓林館のものであります。問題文は著作権の関係で掲載できません。お手数ですが，教科書を参照してください。)

p.68 ①

$$\square + \Delta \times a = b$$

$$\square + \Delta \times c = d \text{ の問題}$$

4年下 p.34 ①の $\square \times a + b = c$ の問題 と，

本時の

$$\square + \Delta \times a = b$$

$$\square + \Delta \times c = d \text{ の問題}$$

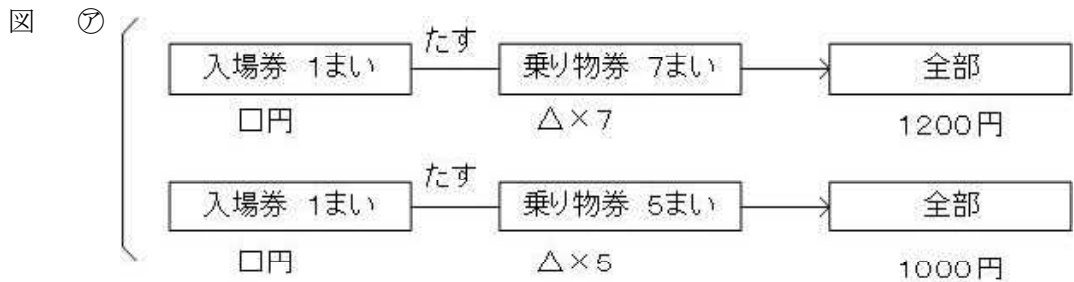
とを**比べる**ことで，次のような

一般化されためあてをつかむ。

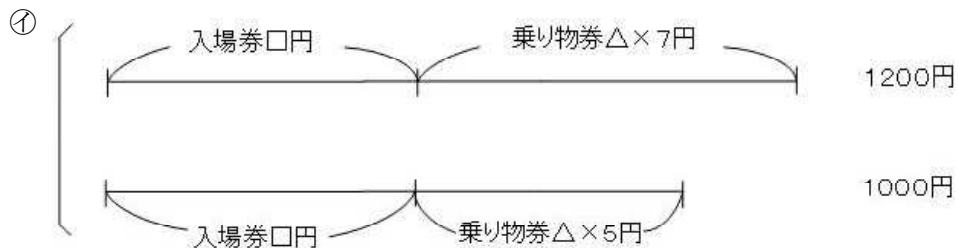
めあて

分かっていない数と，分かっている数を，かけたりたしたりする関係が2つあり，その2つの関係に，同じものがあるときの，分からない数の求め方を考えよう。

・ 4年上 p.99 の計算のきまり□と△の扱いと，4年下 P.34 ①の図を使って



・ 4年上 p.99 の計算のきまり□と△の扱いと，3年下 p.103 □を用いた図を使って



式 ⑦か⑧どちらかの図から，同じものをさしひいて

$$\Delta \times 2 = 200$$

乗り物券2枚が200円になるから、1枚は

$$200 \div 2 = 100$$

$$\left(\begin{array}{l} \text{入場券は } \square + 100 \times 7 = 1200 \text{ だから} \\ 1200 - 700 = 500 \end{array} \right)$$

答え 乗り物券1まいのねだん 100円
(入場券1まいのねだん 500円)

まとめ

分かっていない数と、分かっている数を、かけたりたしたりする関係が2つあり、その2つの関係に、同じものがあるときの、分からない数を求めるには、同じものをさしひいて、ちがいを求めていく。

p.69 ①

$$\square = \Delta \times a$$
$$\square + \Delta = b \text{ の問題}$$

p.68 ①の

$$\square + \Delta \times a = b$$
$$\square + \Delta \times c = d \text{ の問題}$$

及び、3年上 p.110 ①の

$$\square \times a = b$$

と

本時の

$$\square = \Delta \times a$$
$$\square + \Delta = b \text{ の問題}$$

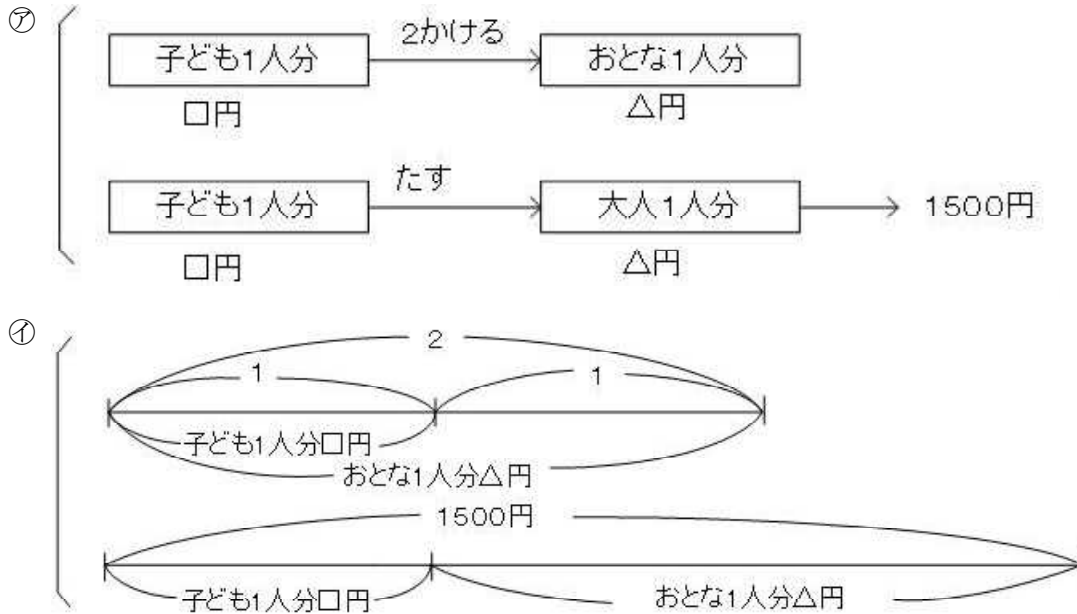
とを**比べ**ることで、次のような

一般化された **めあて** をつかむ。

めあて

分かっていない数と、分かっている数を、かけたりたしたりする関係が2つあり、その1つがかける関係で、もう1つが たす関係であるときの、分かっていない数の求め方を考えよう。

図



式

㊦と㊧どちらかの図から

① $\Delta = \square \times 2$

② $\square + \Delta = 1500$

②の式の、おとな1人分△円を①の式の子ども2人分 $\square \times 2$ 円におきかえると、

②の式は、子ども1人分□円（分かっている数）だけの式になる。

$$\square + \square \times 2 = 1500$$

これは、分かっている数□が3つになることから

$$\square \times 3 = 1500$$

3年の「かくれた数はいくつ」の学習を生かして、

$$\square = 1500 \div 3 = 500$$

分かっている数△は、①の式から、□の2倍だから

$$\Delta = 500 \times 2 = 1000$$

答え おとな1人分の料金 1000円
 子ども1人分の料金 500円

まとめ

分かっている数と、分かっている数を、かけたりたしたりする関係が2つあり、その1つが、かける関係で、もう1つがたす関係であるときの分かっている数を求めるには、かける関係を使って、分かっている数が1つだけになるように置きかえてとく。